

第103号
2022年7月

風

発行

群馬県生協連女性協議会
群馬県前橋市大友町1-13-12
学校生協会館3階

※移転のため住所が変わりました

「風」はホームページでもご覧いただけます

<https://gunma-ccu.jp/>

Eメール: post@gunma-ccu.jp

6月20日(月)

女性協議会第29回定期総会を開催 書面議決により全ての議案が賛成多数で可決されました

第29回群馬県生協連女性協議会定期総会が、6月20日(月)ぐんま男女共同参画センターで開催されました。今年度の定期総会も、新型コロナウイルスの感染を考慮し、現新運営委員と事務局のみの参加となりました。

この1年女性協の活動も思うようには進みませんでした。感染予防対策を講じながら、オンラインも活用し毎月定例の運営委員会・二役会議ともに中止することなく、開催することができました。

2022年度はオンライン併用等、コロナ禍でも出来る活動をみなさんと一緒に考え、実施していきたいと考えています。

定期総会では中島瑞恵運営委員が司会として進行し、田中会長の開会挨拶の後、群馬県ぐんま男女共同参画センター所長 下山裕子様より頂戴したメッセージを田代裕子運営委員が代読し、書面議決書の開票確認に移りました。採決は提出された51名の書面議決書によって、第1号議案「2021年度活動報告および活動費報告承認の件」、第2号議案「2022年度活動方針案及び活動費計画決定の件」、第3号議案役員選任の件」を賛成多数で可決しました。

今回運営委員の一部交代がありましたので若干の時間、運営員交流を行いました。

総会の最後に藤原副会長より閉会の挨拶があり、約40分の総会を終了しました。

2022年度会長 木樽 千恵子(コープぐんま)



2021年度・2022年度運営委員

2月28日(月)

日本生協連中央地連 男女共同参画学習会をZOOMで開催 講師:津田塾大学客員教授・日本生協連有識者理事 村木 厚子さん



群馬県生協連女性協議会は、2月28日(月)に日本生協連中央地連で企画した「コロナ禍による社会の変化と課題をジェンダーの視点で考える」をテーマとした、男女共同参画学習会に参加しました。

学習会はZoomで行われ、男女共同参画社会において、コロナ禍が及ぼした社会の変化を整理し、ジェンダーの視点から見たコロナ終息後の新たな社会での課題について学びました。

【村木先生の講演の内容】

学習講演テーマ「コロナ禍による社会の変化と課題をジェンダーの視点で考える」

データから見えるコロナ禍の女性への影響と課題

コロナ禍での女性への影響と課題に関する研究会の報告書からみえること、他と比べて女性の雇用・就業の減少が大きい、特に、非正規労働者の減少が大きい傾向がみられます。また、DVや女性の自殺が急増しています。

今後のジェンダー平等へ向けて

日本のジェンダー平等は大きく進歩してきています。しかし、世界のスピードはもっと速く、乖離が広がっているため、スピード感をもって取り組む必要があります。女性の継続就業や男性の家事・育児時間・育休取得率の向上がアプローチへのカギです。具体的には、経済的地位と家庭で役割分担、女性も働きやすい力を発揮できる職場を作るなどのインフラ面の改革も必要です。

男性の環境を変える

行動経済学から見えてきた、ポジティブアクション。単に女性に焦点をあてるのではなく、男性にも焦点をあてることによって生産性の向上が見られました。これまでの固定的な性別役割分担意識などが原因で男性も女性も能力を発揮しにくい環境に置かれていることがわかりました。例えば、女性主導でなく、男性が積極的に育児や家事に参加することで、マルチに仕事をこなす観点が身に付き、男性の仕事の生産性の向上が見られたとの報告もあります。

社会を変える

私たちは有権者として制度は声で変えられます。生協の豊富な資源、買い物、仕事、学習、ボランティア、おしゃべり、インターネットなど、社会資源を提供する場づくりを何があれば本気になれるか、考えることが重要です。

完璧でなくていい、いろんな人に頼りながら、お互いさまの関係づくりが好ましいと締めくくりました。

《 学習講演に参加した運営委員（開催当時）の感想 》

コロナ禍で改めて浮き彫りになった弱い立場の困窮ぶりをジェンダーの視点を通じて深めることが出来ました。

ジェンダー平等の問題というのは女性の問題、男性の問題というだけでなく全員の生き方であったり暮らし方、夫の家事、育児時間が長いほど妻の継続就業割合が高くまた、第2子以降の出産割合も高い傾向にあるということなどお話いただきました。

一人ひとりの心がけや行動からジェンダー平等を推進していければいいと思います。

田中 利恵子（コープぐんま）

コロナ禍によって主婦や高校生の自殺が増えていることに驚きました。所得格差が経済成長を抑制しているならば、義務教育を保育園から大学までとし、無償で教育を受けられることが必要と思います。かつては職場に家庭を持ち込むことは許されないことでしたが、時代が変わったと思いました。

個人情報保護法や守秘義務が、情報の共有や多様性の広がりを阻害していると思います。

様々な重層的支援体制を広く知ってもらうことが、SDGsの誰ひとり取り残さない運動と思います。

藤原 京子（利根保健生協）

《 学習講演に参加した運営委員（開催当時）の感想 》

村木講師は口調も穏やかでとても温かみのある方でした。

お話しの中で心に残ったことは、* "無意識の差別"を自分では行なってはいないか。* ジェンダー平等の現状では日本では進んでいると思っていたが、156位中120位とスピード不足である。* G20 雇用労働大臣会合テーマにある "包摂的成長" という言葉を知ったこと。* 「自立」とは。"自立"とは依存しないことではない。"自立"とはたくさんものに少しずつ依存できるようになることである。

今の私には最後の自立とは。が、心の救いとなりました。

岩崎 知恵（コープぐんま）

厚生労働省で働いていた村木厚子さんの今の活動のお話に興味がありました。コロナ禍での女性への影響はいままでのアンケートや学習会でも聞いてきたことですが、なかなか身近に感じてきていなかったのではと思われました。当事者の生の声を聞いて寄り添っていくことの大切さを学びました。

男性の環境を変えること、女性に焦点を当てるばかりでなく、男性にも焦点を当てて改善していくことが望ましいとのこと。

完璧でなくてもいい。いろんな人に頼りながらお互い様の関係作りが好ましいっていいですね！

吉田 寿美子（はるな生協）

根拠のある数字とご自身の経験を元に語られるコロナ禍の厳しい現状に聴き入りました。

心に強く残ったのは、「SOSを出せない人へこちらから手を伸ばすこと（アウトリーチ）の大切さ」「日頃のつながりの重要性」という言葉です。

組合員活動をしている私達が、その強みを最大限活かすことで、誰もが生きやすい社会を作れるのではないのでしょうか。

中野 真由里（群馬中央医療生協）

コロナ禍の中で女性の非正規雇用の減少やDV、又立場の弱い学生等に様々な問題を与えていること、特に貧困格差が浮き彫りになったことを学んだ。

困難を抱えている人たちの共通点として、

- ①複数の困難を抱えている事
 - ②社会とのつながりが切れている事
- があげられ、島根県の実践例”からお互い様の精神で、誰一人取り残されない町づくりが大事であることを改めて学びました。

下田 晶子（北毛保健生協）

村木先生のお話から、コロナ禍で生じている女性への影響と課題について深く考えさせられた。弱い立場の人が様々なストレスにさらされている。日本のジェンダー平等は、かつてよりは進歩しているが世界的に見ると、まだまだ発展途上であり、インフラ面の改革が急務である。とりわけ、比較的高い年齢層に根強く残る性別役割分担意識を取り払い、男女の垣根を超えて物事を多面的に捉える必要がある。

先生から生協の活動でできることがあるとしたら、できるだけ固定的な役割分担意識を崩すようなやり方で男性だけの講座を開催するなどのご提案があった。そして無意識の固定概念を崩して少数派の男性もウェルカムの雰囲気を作るようにするとよいそうです。

これからの男女共同参画のあり方は、ジェンダーが障害となることなく、ひとりひとりが望む暮らし方ができること。私たち生協は、その果たすべき役割を遂行していかなければならないと再認識した。

田代裕子（パルシステム群馬）

退任運営委員からのメッセージ

第29回定期総会において、運営委員4名が退任されました。退任された4名の方から機関紙「風」にメッセージを寄せていただきましたので、ご紹介します。

なお、新たに運営委員となられた方は、次号にて紹介させていただきます。

コロナ禍での2年間という短い間でしたが女性協の活動を通して色々な視点から物事をとらえ学ぶことが出来ました。ジェンダー平等の問題は男女関係なくその人の生き方であったり暮らし方の問題であることに気づき今後は視野を広げていくことが大切だと思いました。

日本は今、社会を変えよう！変えたい！という動きになってきてます。今後、日本全体の体質、意識が変わっていくことを期待したいです。女性協の活動に関わらせていただき感謝しています。

ありがとうございました。

2021年度会長 田中利恵子

長い期間運営委員として活動し学ばせていただきました。

各単協の運営委員さんと知り合え、また、他生協のことも知ることができました。

当初、「男女共同参画は家庭から」とか「その人らしく生きることが大切」と言いながらも、女性協って？男女共同参画って？と聞かれても説明しにくいことがありました。しかし、近年SDGsのジェンダー平等の認識からみんなの意識も変わってきていると感じます。意識することが大切です。

中央地連の学習会（国立女性会館の職員の講演）での無意識の差別（アイコンシャス・バイアス）を知ったことにより、自分たちの言葉や行動に気づきを持つようになりました。気づくことにより意識の変化が生まれます。性別関係なく生きやすい社会になることを願います。

長い期間やっている女性協ですが、まだまだ各単協での男女共同参画の取組が広がっていない状況ではないでしょうか？これからの期待したいですね！

長い間大変お世話になりました。

2021年度運営委員 吉田寿美子

女性協議会に参加し、たくさんの勉強をさせていただきました。

子どもたちには私たちの世代の想いを押し付けてはいけない事、時代に沿った色々な事柄を私たち50代でも学習していく事が今の世の中を変えて、子どもたちを守っていくことになると思います。

退任となりますが、これからも活動に参加していきます。

委員の皆さま、大変お世話になりました。

2021年度運営委員 岩崎知恵

女性協の活動に参加させて頂き、改めて男女共同参画やジェンダー平等について広い視野から学び、又身近な問題として捉える事ができました。

社会的にも取り上げられ変化してきている現状ですが、これからも職場や、地域の中で意識的にかかわっていくことが大切だと感じています。

2年間大変お世話になりました。

もっと変わっていかなければいけません。

2021年度運営委員 下田晶子